

個性派企業の追求～社会貢献企業実現のために

昭和電工株式会社

2010年第2四半期 決算説明資料

2010年8月3日決算発表

取締役 専務執行役員 CFO
野村 一郎



本資料は発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

連結対象会社(前期末対比)

- 連結子会社 41社:増減なし
- 持分法適用会社 17社:△1社 クリスタルスペシャリティーズ社(清算、電子・情報)

主要諸元

(期中平均)

	2009年1-6月	2010年1-6月	増減
■ 為替レート※ (円/US\$)	95.5	91.4	4.1 円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	30,150	48,700	18,550
■ アルミ LME (US\$/T)	1,456	2,160	738

※09年12月31日期末レート92.1円 10年6月30日期末レート88.5円

⇒ 3.6円円高

連結業績の概要

2009年1-6月 対 2010年1-6月

(億円)

	2009年1-6月	2010年1-6月	増減
売上高	2,867	3,841	974
営業利益	△229	177	406
営業外損益	△115	△37	78
内、金融収支	△27	△22	5
内、持分法損益	△12	7	19
内、為替差損益	4	△5	△9
内、操短損失	△48	△1	47
経常利益	△343	140	484
特別利益	19	29	10
特別損失	△164	△62	103
税金等調整前四半期純利益	△488	108	596
法人税等	23	△19	△42
少数株主損益	0	△12	△12
四半期純利益	△465	77	542

特別損益の内訳

(億円)

	2009年1-6月	2010年1-6月	増減
■特別利益	19	29	10
●投資有価証券売却益	15	0	△15
●補助金収入	—	20	20
●その他	4	9	5
■特別損失	△164	△62	103
●固定資産除却損及び売却損	△14	△16	△2
●期首たな卸資産評価損	△55	—	55
●減損損失	△84	△11	73
●その他	△11	△34	△24
■特別損益	△145	△32	113

連結売上高差異内訳(1-6月累計前年同期対比)

(億円)

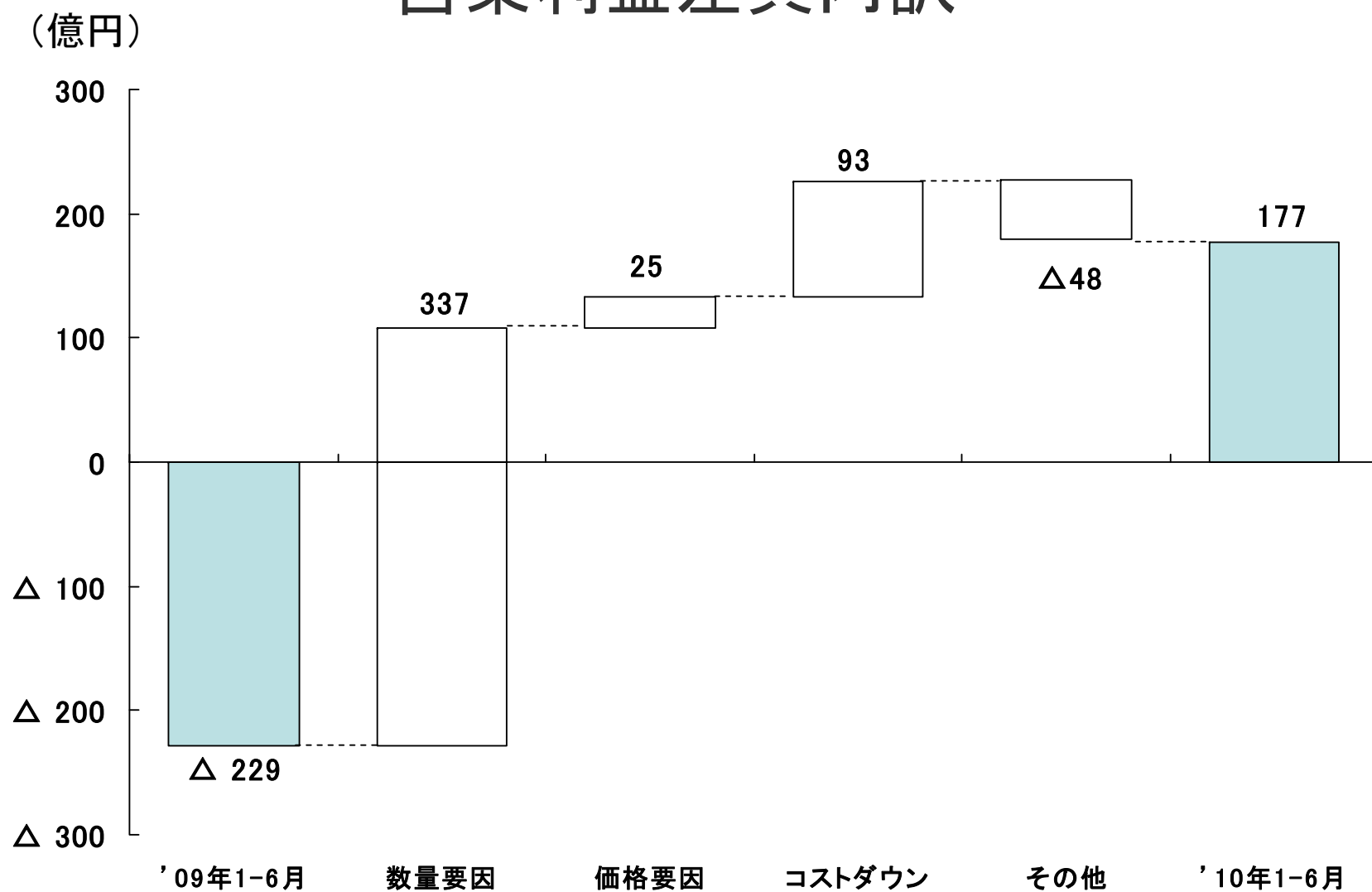
	2009年 1-6月	2010年 1-6月	増減	項目
石油化学	962	1,264	302	オレフィン:増収(定修による数量減、価格は上昇) 有機:増収(酢エチ等の価格上昇)
化学品	468	446	△22	AN:増収(数量増、価格上昇) アンモニア、クロロプレンゴム:増収(数量増) 昭和炭酸:減収(前年同期は決算期変更により9ヶ月決算)
電子・情報	430	868	438	HD:増収(ノートPC等向け数量大幅増) 化合物半導体:増収(汎用LED、超高輝度LED共に数量増) 特殊ガス:増収(液晶向け等数量増) レアアース:増収(自動車向け数量増)
無機	229	371	143	セラミックス:増収(自動車、鉄鋼向け数量増) 電極:増収(日米共に数量増)
アルミニウム 他	777	891	113	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増収(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増) 熱交換器:増収(中国を中心に数量増) ショウティック:増収(自動車向け数量増)
合計	2,867	3,841	974	

連結営業利益差異内訳(1-6月累計前年同期対比)

(億円)

	2009年 1-6月	2010年 1-6月	増減	項目
石油化学	20	16	△4	オレフィン:減益(定修による数量減) 有機:増益(酢エチ等価格上昇)
化学品	△11	22	34	AN:増益(価格上昇) アンモニア、クロロプレンゴム:増益(数量増)
電子・情報	△157	68	224	HD:増益(数量大幅増) 化合物半導体:増益(汎用LED、超高輝度LED共に数量増) 特殊ガス、レアアース:増益(数量増)
無機	3	37	34	セラミックス:増益(数量増) 電極:増益(日米共に数量増)
アルミニウム 他	△68	46	113	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増益(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増、 前年の構造改革効果) ショウテック:増益(数量増) 熱交換器:増益(数量増、日米欧の合理化効果が顕現)
共通・本部	△16	△11	5	
合計	△229	177	406	

営業利益差異内訳



連結業績の概要

2009年4-6月 対 2010年4-6月

(億円)

	2009年4-6月	2010年4-6月	増減
売上高	1,656	1,964	308
営業利益	△72	107	179
営業外損益	△35	△18	17
内、金融収支	△11	△8	3
内、持分法損益	2	6	3
内、為替差損益	△3	△8	△5
内、操短損失	△13	△0	13
経常利益	△107	89	196
特別利益	19	26	7
特別損失	△91	△48	43
税金等調整前四半期純利益	△180	68	248
法人税等	△65	△21	44
少数株主損益	0	△6	△6
四半期純利益	△244	42	287

連結売上高差異内訳(2Q前年同期対比)

(億円)

	2009年 4-6月	2010年 4-6月	増減	項目
石油化学	561	623	62	オレフィン:増収(定修による数量減、価格は上昇) 有機:減収(酢ビ等の数量減)
化学品	270	228	△42	AN:増収(数量増、価格上昇) アンモニア、クロロプレンゴム:増収(数量増) 昭和炭酸:減収(前年同期は決算期変更により6ヶ月決算)
電子・情報	271	442	171	HD:増収(数量大幅増) 化合物半導体:増収(汎用LED、超高輝度LED共に数量増) 特殊ガス、レアアース:増収(数量増)
無機	124	198	74	セラミックス:増収(数量増) 電極:増収(日米共に数量増)
アルミニウム 他	430	473	43	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増収(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増) 熱交換器:増収(欧州を除き全拠点で数量増) ショウティック:増収(自動車向け数量増)
合計	1,656	1,964	308	

連結営業利益差異内訳(2Q前年同期対比)

(億円)

	2009年 4-6月	2010年 4-6月	増減	項目
石油化学	26	6	△20	オレフィン、有機:減益(定修による数量減)
化学品	△3	11	14	AN、クロロプレンゴム、アンモニア:増益(数量増)
電子・情報	△63	42	106	HD:増益(数量大幅増) 化合物半導体:増益(汎用LED、超高輝度LED共に数量増) 特殊ガス、レアアース:増益(数量増)
無機	△1	26	27	セラミックス:増益(数量増) 電極:増益(日米共に数量増)
アルミニウム 他	△23	27	51	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増益(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増) 熱交換器:中国、米国中心に増益(数量増) ショウティック:増益(自動車向け数量増)
共通・本部	△7	△5	2	
合計	△72	107	179	

連結貸借対照表

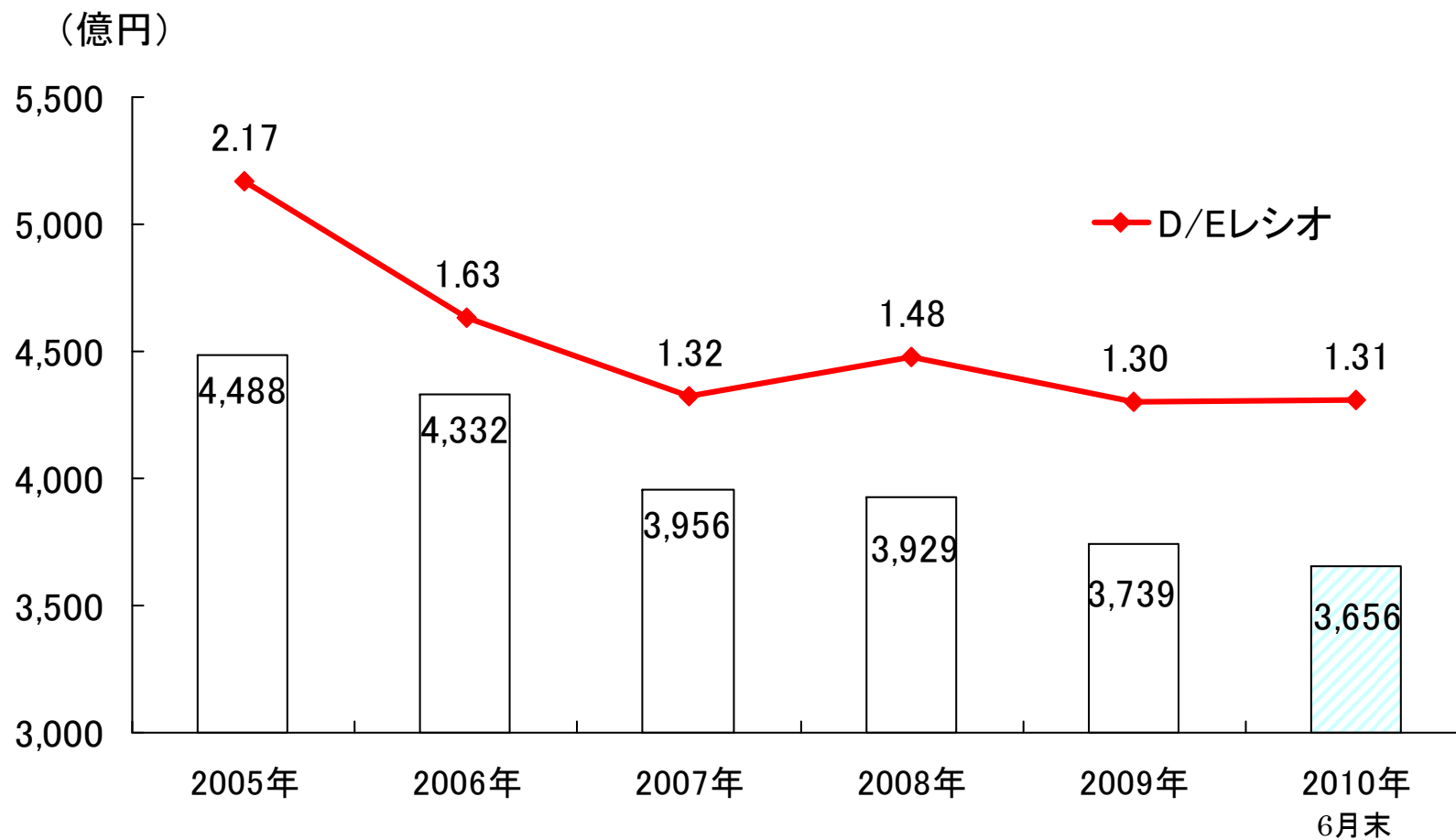
(億円)

資産	2009年 12月末	2010年 6月末	増減	負債・純資産	2009年 12月末	2010年 6月末	増減
現預金	625	401	△224	営業債務	1,166	1,136	△29
営業債権	1,476	1,445	△30	有利子負債	3,739	3,656	△83
たな卸資産	923	1,002	78	退職給付引当金	271	267	△4
その他	302	311	9	その他	1,540	1,546	6
流動資産計	3,327	3,159	△167	負債計	6,716	6,605	△111
建物・構築物	911	901	△10	資本金	1,406	1,406	—
機械装置・運搬具	1,348	1,444	95	資本剰余金	622	622	△0
土地	2,558	2,553	△5	利益剰余金	293	323	30
他有形固定資産	226	184	△42	自己株式	△2	△2	△0
有形固定資産計	5,043	5,081	38	株主資本計	2,319	2,349	30
無形固定資産	136	127	△9	その他有価証券評価差額金	26	△44	△70
投資その他の資産	1,078	1,028	△50	繰延ヘッジ損益・為替換算調整勘定	△122	△161	△40
(内、投資有価証券)	651	572	△79	土地再評価差額金	218	220	2
				評価・換算差額等計	122	14	△108
				少数株主持分	426	427	1
固定資産計	6,257	6,236	△20	純資産計	2,867	2,790	△77
資産合計	9,583	9,395	△188	負債・純資産合計	9,583	9,395	△188

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2009年末	2010年6月末	増減
■ 総資産	9,583億円	9,395億円	△188億円
■ 有利子負債	3,739億円	3,656億円	△83億円
■ D/Eレシオ	1.30倍	1.31倍	0.01p
■ 自己資本比率	25.5%	25.2%	△0.3p

連結有利子負債の推移



自己資本比率	21.0%	22.7%	26.9%	25.0%	25.5%	25.2%
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

連結キャッシュフロー

(億円)

	2009年 1-6月	2010年 1-6月	増減
●営業CF	△176	200	376
●投資CF	△94	△232	△138
●フリー・キャッシュ・フロー	△270	△32	238
●財務CF	279	△180	△459
●その他	14	△11	△26
現預金増減額	23	△224	△247

金融収支・設備投資・人員等(連結)

(億円)

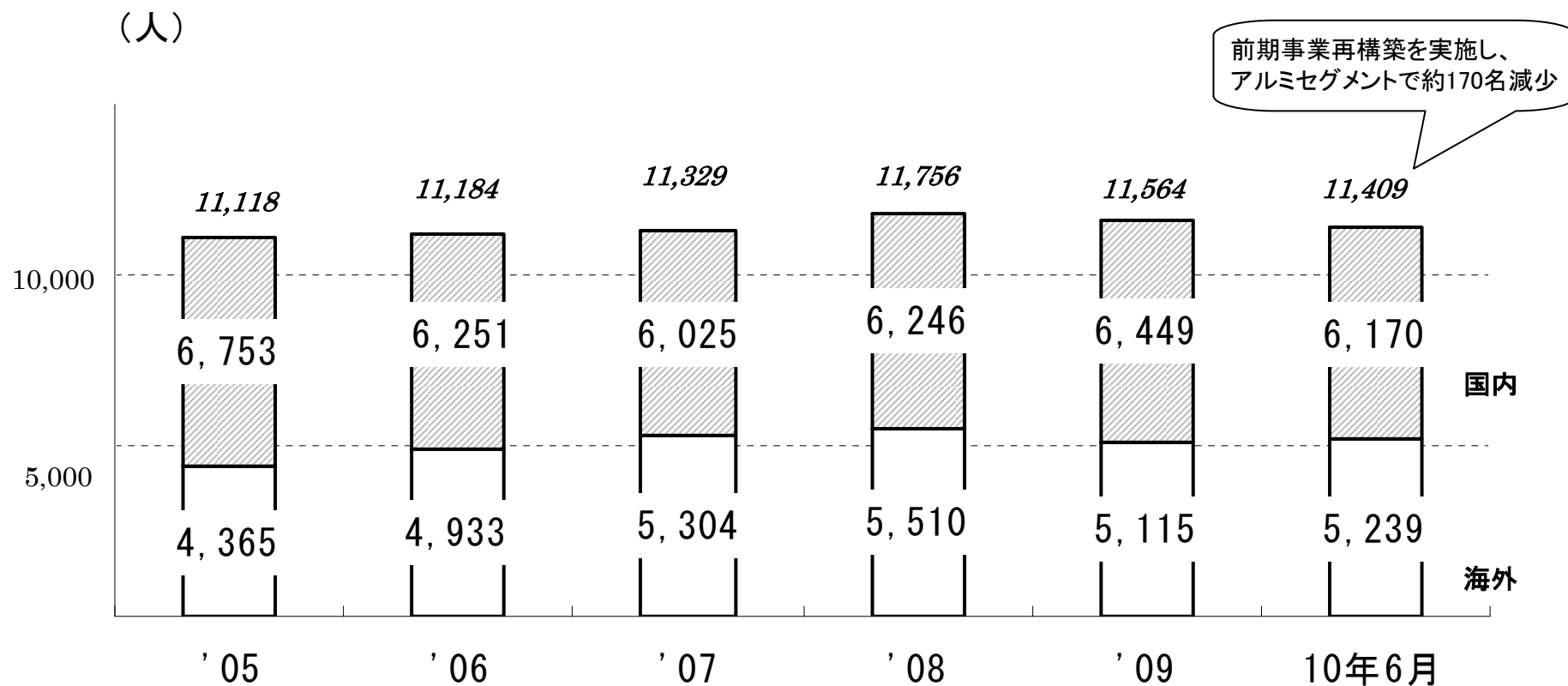
	2009年 1-6月	2010年 1-6月	増減
●金融収支	△27	△22	5
●設備投資	203	343	140
●減価償却費	279	248	△31
●研究開発費	105	102	△3
●期末従業員(人)	11,226	11,409	183
●総人件費	356	362	6

セグメント別設備投資・減価償却

(億円)

	2009年(1-6月)		2010年(1-6月)		増減	
	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却
石油化学	28	36	196	36	168	△0
化学品	39	41	21	36	△19	△5
電子・情報	83	129	88	114	5	△14
無機	20	21	15	17	△5	△4
アルミニウム他	32	53	23	44	△9	△9
全社計	203	279	343	248	140	△31

連結総人員の推移と国内海外人員割合



国内割合	60.7%	55.9%	53.2%	53.1%	55.8%	54.1%
海外割合	39.3%	44.1%	46.8%	46.9%	44.2%	45.9%

2010年通期業績予想

(億円)

	2010年予想 4月28日公表	2010年予想 8月3日公表	増減	2009年 実績
売上高	8,000	8,250	250	6,782
営業利益	330	400	70	△50
経常利益	245	320	75	△223
当期純利益	120	140	20	△380
1株当たり 当期純利益	8円2銭	9円35銭	1円33銭	△29円44銭
1株当たり配当金	3円	3円	—	3円

セグメント別通期売上高予想(連結)

(億円)

	2010年予想 4月28日公表	2010年予想 8月3日公表	増減	2009年 実績
石油化学	2,750	2,850	100	2,360
化学品	950	950	0	919
電子・情報	1,950	1,950	0	1,278
無機	700	750	50	537
アルミニウム他	1,650	1,750	100	1,688
合計	8,000	8,250	250	6,782

セグメント別通期営業利益予想(連結)

(億円)

	2010年予想 4月28日公表	2010年予想 8月3日公表	増減	2009年 実績
石油化学	60	60	0	80
化学品	40	40	0	4
電子・情報	150	160	10	△98
無機	60	85	25	36
アルミニウム他	60	85	25	△42
共通・本部	△40	△30	10	△30
合計	330	400	70	△50

予想諸元

	2010/1-6	2010/7-12	差異
●為替レート(円/US\$)	91	90	△1
●国産ナフサ(円/KL)	48,700	47,150	△1,550
●アルミLME(US\$/T)	2,160	2,250	90

(億円)

	2009年	2010年予想	差異
●有利子負債	3,739	3,650	△89
●金融収支	△56	△50	6
●研究開発費	207	219	12
●期末従業員(人)	11,564	11,654	90
●総人件費	727	735	8

セグメント別設備投資・減価償却予想(通期)

(億円)

	2009年		2010年予想		増減	
	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却
石油化学	45	70	223	81	178	11
化学品	67	82	89	82	21	△0
電子・情報	146	257	269	241	123	△17
無機	34	37	36	34	3	△3
アルミニウム 他	95	98	62	87	△32	△11
全社計	387	544	679	524	292	△20

(ご参考) 連結業績の概要(10年1Q, 2Q対比)

(億円)

	2010年1-3月	2010年4-6月	増減
売上高	1,877	1,964	87
営業利益	70	107	37
営業外損益	△19	△18	1
内、金融収支	△13	△8	5
内、持分法損益	2	6	4
内、為替差損益	3	△8	△11
内、操短損失	△0	△0	0
経常利益	51	89	38
特別利益	3	26	23
特別損失	△14	△48	△34
税金等調整前四半期純利益	40	68	29
法人税等	2	△21	△22
少数株主損益	△6	△6	0
四半期純利益	35	42	7

(ご参考) 連結売上高差異内訳(10年1Q, 2Q対比)

(億円)

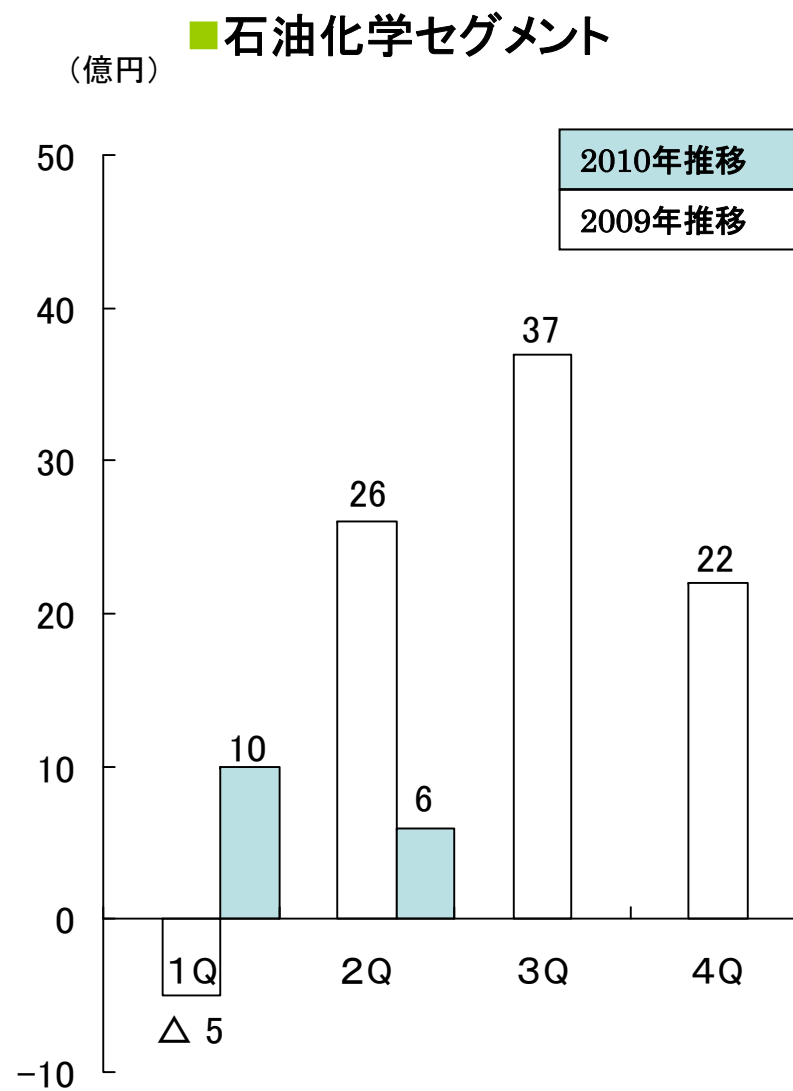
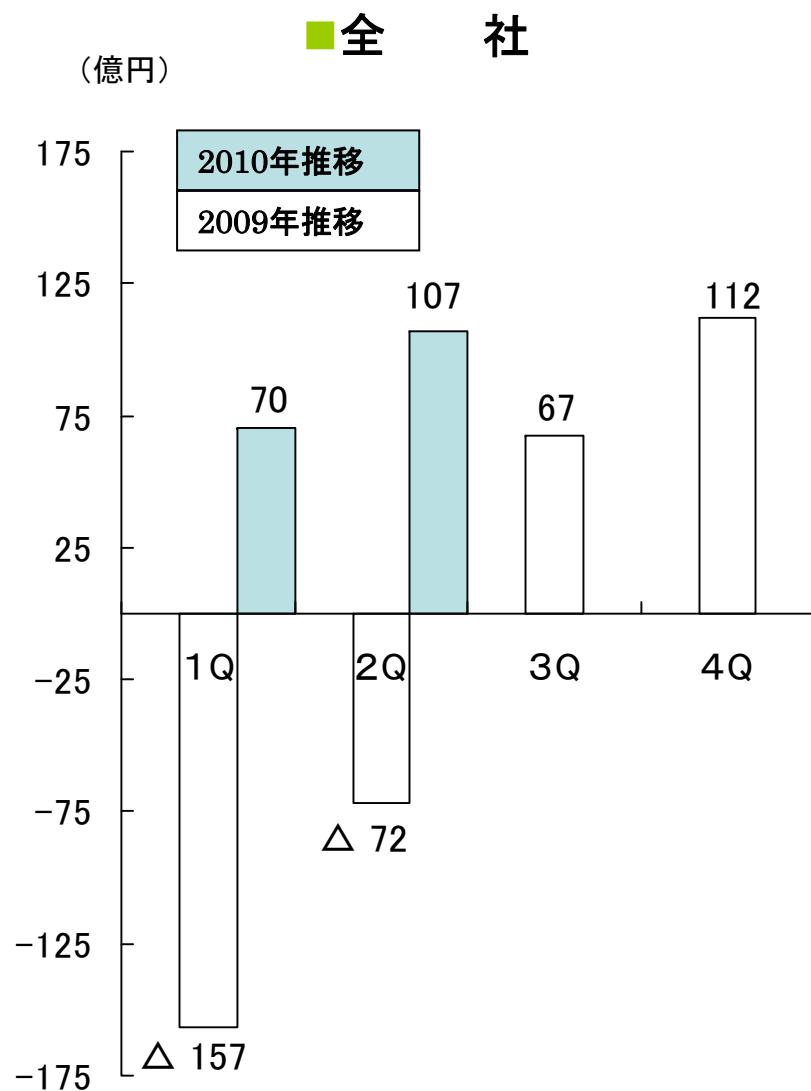
	2010年 1-3月	2010年 4-6月	増減	項目
石油化学	642	623	△19	オレフィン、有機:減収(定修の日数差による数量減)
化学品	218	228	10	AN:増収(価格上昇) クロロプレンゴム:増収(数量増)
電子・情報	426	442	17	HD:増収(製品構成) 化合物半導体:増収(汎用LED、超高輝度LED共に数量増) 特殊ガス、レアアース:増収(数量増)
無機	174	198	24	セラミックス:増収(数量増) 電極:増収(特に米国で数量増)
アルミニウム 他	418	473	55	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増収(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増) アルミ缶:増収(季節性による数量増)
合計	1,877	1,964	87	

(ご参考) 連結営業利益差異内訳(10年1Q、2Q対比)

(億円)

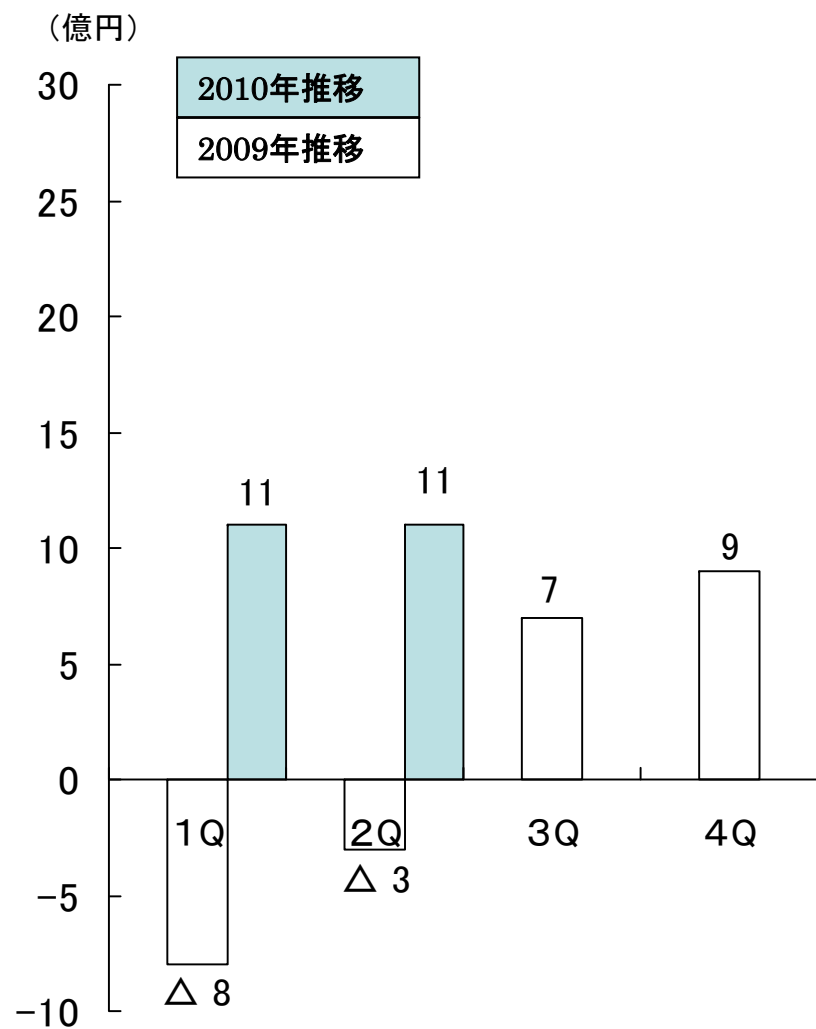
	2010年 1-3月	2010年 4-6月	増減	項目
石油化学	10	6	△5	オレフィン: 減益(定修の日数差) 有機: 増益(価格上昇)
化学品	11	11	0	AN: 増益(数量増、価格上昇) アンモニア: 減益(原料高)
電子・情報	25	42	17	HD: 増益(製品構成) 化合物半導体: 増益(汎用LED、超高輝度LED共に数量増) 特殊ガス: 増益(数量増) レアアース: 増益(数量増)
無機	11	26	14	電極: 増益(特に米国で数量増)
アルミニウム 他	18	27	9	圧延品: 増益(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材: 増益(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増) アルミ缶: 増益(季節性による数量増)
共通・本部	△6	△5	1	
合計	70	107	37	

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

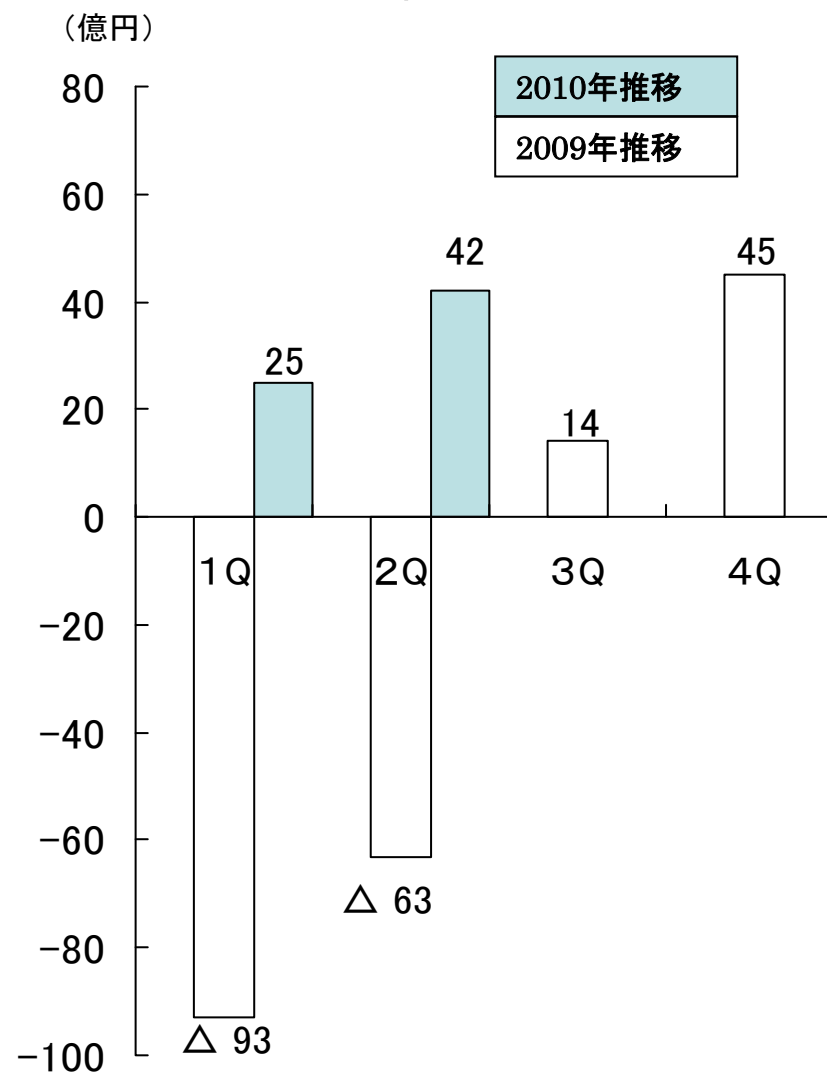


(ご参考)セグメント別連結営業利益推移

■ 化学品セグメント

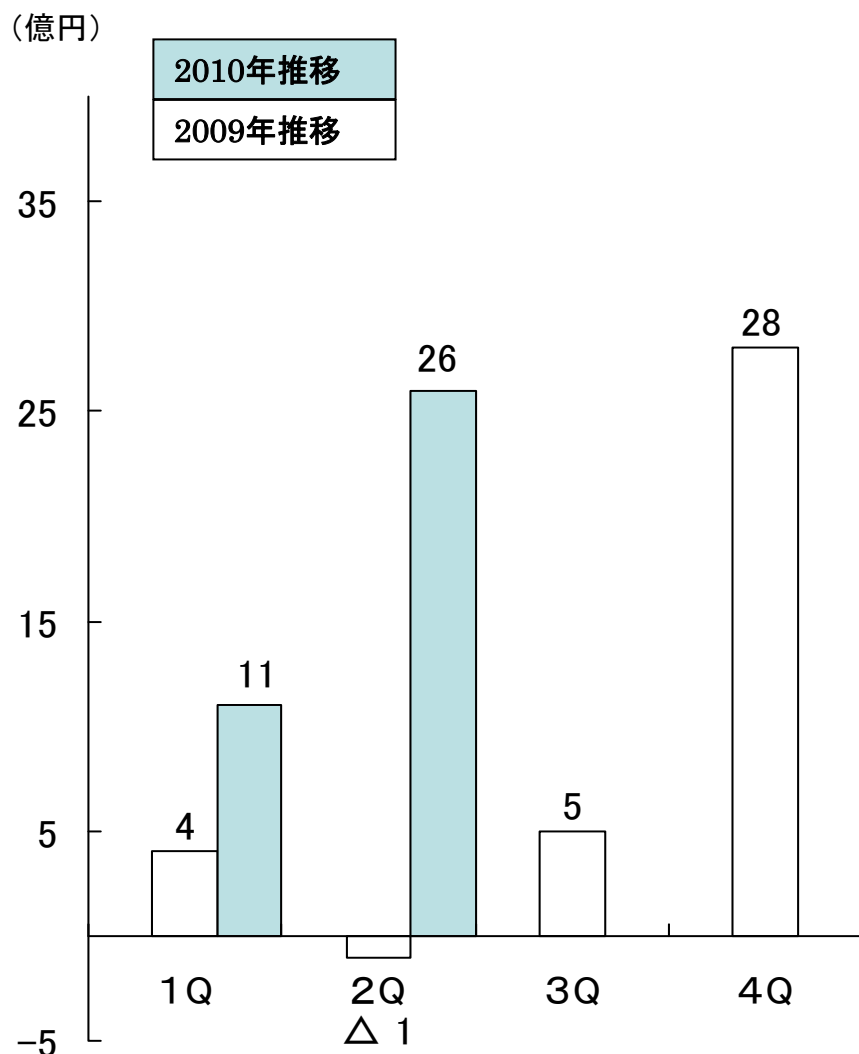


■ 電子・情報セグメント

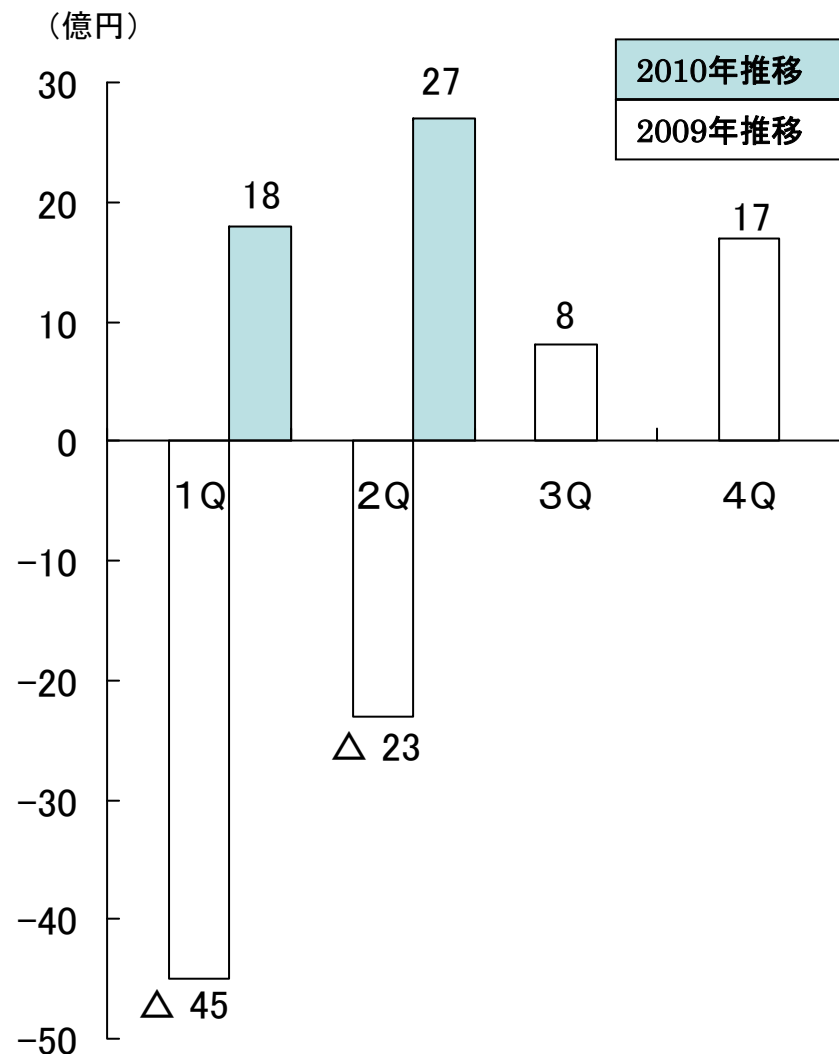


(ご参考)セグメント別連結営業利益推移

■無機セグメント



■アルミニウム他セグメント



■ 石油化学セグメント

- 大分コンビナートエチレン設備 最新鋭分解炉への設備改造工事を実施
 - ◆ 大分コンビナートにおいて、既存分解炉のうち7基の廃棄および最新鋭高効率分解炉(エチレン年産10万トン×2基)への更新を中心とするエチレン設備改造工事を定期修理に合わせて実施し、本年5月より稼働。本工事によりエネルギー効率を国内トップレベルに引き上げると共に、二酸化炭素排出量を年間約6万トン削減する。

- 環境対応溶剤 酢酸ノルマルプロピルの本格生産を開始
 - ◆ 本年2月より大分コンビナートにおいて特殊グラビア印刷用インキ溶剤として使用される酢酸ノルマルプロピルの生産を開始。酢酸ノルマルプロピルは、既存の溶剤に比較して環境に対する負荷が小さくかつ安全性が高く、今後の需要の伸びが期待される。

- 大分コンビナート 第34回日化協・JRCC「安全最優秀賞」を受賞
 - ◆ 大分コンビナートは社団法人日本化学工業協会と日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)による第34回日化協・JRCC「安全最優秀賞」を受賞。今回、無災害を668万時間継続したことや無事故、無災害を目指した様々な取り組みについて評価を受けた。今後も当社グループ全体で、安全に対するさらなる意識向上と活動の充実を図る。

■化学品セグメント

- 液化アンモニア「エコアン[®]」東北圏 新物流基地稼動開始
 - ◆ 東北圏における液化アンモニア「エコアン[®]」の輸送効率とサービスレベルの向上を図るため、子会社丸昭興業(株)において福島県相馬港に物流基地を新設。使用済みプラスチックを原料として製造する「エコアン[®]」は、大手電力会社よりグリーン調達品としての認定を受けており、火力発電所等の排煙に含まれる窒素酸化物の除去等に使用される。

- 半導体・液晶パネル材料ガスの処理装置事業の強化
 - ◆ 半導体や液晶パネルの製造工程で使用するPFC(パーフルオロカーボン)ガス類^(注)の処理装置事業の強化を図るため、(株)日立製作所より触媒方式による同事業を譲り受けた。分解反応式PFC排ガス処理装置事業に、新たに触媒式による処理装置事業を加え、大型液晶パネル向け分野への事業展開を図る。また、両方式を組み合わせたハイブリッド式排ガス処理装置を開発し、2011年より販売開始の予定。
(注)PFCガス類とは水素や塩素を含まないフッ化炭素系化合物および六フッ化硫黄等を指し、二酸化炭素等と同様京都議定書において地球温暖化ガスとして削減対象となっている。

■電子・情報セグメント

●ハードディスク生産設備の能力増強について

- ◆ハードディスクドライブ(HDD)の需要拡大に応じたハードディスクの生産能力増強を実施予定。

全生産拠点合計のハードディスク生産能力を現行^(注)の月産2,200万枚から2011年3月末までに同2,500万枚へ引き上げる。具体的には、子会社昭和電工HDシンガポールにおいて新たなクリーンルームを建設し、生産ラインを順次導入する。併せて、千葉、山形、台湾の各生産拠点においても生産能力を引き上げる。投資額は、約100億円を見込む。ハードディスクを内蔵するHDDは、ノートPC向けを中心として中期的に安定的な需要拡大が見込まれる。

(注)2010年3月末現在

●磁石合金原料の生産工場をベトナムに竣工

- ◆子会社昭和電工レアアースベトナム有限会社において、高性能ネオジム系磁石合金の原料となるジジウムメタルおよびジスプロシウムメタルの生産設備を完成させ、本年5月より年産800トンの規模で生産を開始。高性能ネオジム系磁石は、強力な磁力特性を持つことから自動車やハードディスクドライブなどのエレクトロニクス製品に使用されるほか、電気自動車や省エネ家電製品向けなどに急速な需要拡大が見込まれる。ベトナム国内外のレアアース原料や磁石のリサイクル原料などを本設備で加工し、当社磁石合金生産工場へ供給する一貫体制の構築により高性能磁石合金事業の一層の強化を図る。

セグメント別トピックス

- エレクトロニクス分野向け洗浄剤 中国における生産・販売一貫体制を実現
 - ◆ 半導体や液晶パネルの製造工程においてフォトレジストの洗浄や溶媒として使用される高純度シクロヘキサノンの生産設備を、子会社浙江衢州巨化昭和電子化学材料有限公司(中国浙江省)に設置し、本年8月より量産開始予定。今般の高純度シクロヘキサノンの生産・販売一貫体制の構築により、エレクトロニクス分野向け洗浄剤事業を強化し、本分野で高い成長が続くアジア地区のお客様への安定供給を実現する。

- 焼却炉での熱電発電 実用化に向けた本格的な実証実験に着手
 - ◆ 中温域(300～600℃)での高変換効率が特長の熱電素子および本素子を用いた熱電変換モジュールを開発し、本モジュールを使用した廃棄物焼却炉の廃熱による熱電発電の実証実験を(株)プランテックと共同で開始。熱電発電は、熱エネルギーを直接電気に変換する発電方法で、廃熱を有効利用する省エネルギー技術として注目されており、今後実用化に向けて取り組む。

■アルミニウム他セグメント

●冷却器事業開発部を新設

- ◆ ハイブリッド自動車向け等に需要拡大が見込まれる冷却器事業のさらなる強化を図るため、本年4月、冷却器事業開発部を新設。省エネルギー製品として需要拡大が見込まれる自動車向けパワー半導体冷却器の開発から製造、販売までを一体的に運営することにより、さらなる事業拡大を図る。

●液化天然ガス(LNG)向け新型空温式蒸発器を開発

- ◆ 子会社昭和電工アルミ販売(株)は、従来の2倍の連続運転時間を可能にした空温式LNG蒸発器を新たに開発し販売開始。本製品は大気との熱交換によってLNGを気化させるアルミニウムの熱伝導性を活かした屋外設置型熱交換器で、気化されたLNGは発電や都市ガス等に使用される。LNGは、石油等に比べCO₂発生量が少なく、今後地球温暖化対策として採用が進むと予想され、空温式LNG蒸発器は需要の伸びが期待される。